

[戻る](#)

<環境保全に関する取組状況の紹介>

日本電気硝子株式会社 大津事業場

当社は、情報・通信関連などに用いられるガラス製品を製造しています。業種がら、資源・エネルギー等を大量に消費しますので、環境に対する負荷が高い企業であることを認識し、積極的な環境保全活動の取り組みを推進しています。

当社の具体的な環境保全活動の取り組みを2例ご紹介します。

1. 酸素燃焼方式ガラス溶融炉導入による「省エネ」並びに「窒素酸化物発生の抑制」の推進
ガラスは主として重油を燃焼させ、炉内を1500～1600℃に加熱し溶融します。重油を燃焼させるためには酸素が必要で、従来は酸素源に空気を用いて(空気燃焼方式)いました。当社では空気に代え、酸素を用いる方法(酸素燃焼方式)を開発し、いくつかの溶融炉を空気燃焼方式から酸素燃焼方式に転換しました。
酸素燃焼方式は空気燃焼方式に比べ
 - ガラス溶融炉から発生する排ガス量が1/5に減少する。
 - 燃焼に伴う窒素酸化物(サーマルNO_x)の発生を抑制する。
 - 熱効率が高く、重油の消費が減り、省エネになる。等、環境保全に対する効果は大きく、残る空気燃焼方式ガラス溶融炉についても、酸素燃焼方式へと転換する予定です。
2. 「廃棄物削減」の推進
当社は、昨年8月に環境ISO14001の認証を取得しました。環境目的・目標に「省エネ」、「省資源」、「廃棄物削減」等を掲げ、環境管理計画を推進しています。
特に、溶融炉から発生する廃棄物については「ゼロ」を目指して取り組んでいます。現在では集塵機で捕集したダストやガラスのくずは、その全量を資源として社内でリサイクルでき「廃棄ゼロ」を達成しました。
今後引き続き、製品の加工工程で発生する廃棄物や梱包資材の廃棄物の削減に取り組んでいきます。